

△平成 29 年 1 月 11 日（水）開催

準例会（山岳連盟同調）

「兵庫県山岳連盟の森」づくりを推進して

布引支部 A..Y

（岳連理事/自然保護委員長）

花崗岩で形成された六甲山は、水分の浄化が良い為、赤道を越えても腐らない水となり、外国航路に行く舟に重宝されるという利点を持っています。その反面、山地の斜面は水の吸収が良すぎるために大変崩れやすいという難点をも抱えています。その結果神戸の市街は、大雨による土砂崩れや川の氾濫など度々大きな被害にあってきました。国・県・市などの行政は、この災害をくい止めるために六甲山地の砂防堰堤の増設や植林帯の拡大強化などに大変力を入れてきました。一方で、市民の協賛を得ながら奨めている「災害に強い美しい森を育てる」事を目的とした「六甲山グリーンベルト事業」にも大変力を入れ、森づくりを始めとした森林環境保全に取り組んでいます。



（作業中を示すノボリ）



（手入れの住んだ第一ゾーン）

平成 21 年 1 月、当時山岳連盟理事で自然保護委員長をなさっておられた高橋敬三さん（故人）の提唱で、森づくりを担うことになった私たち。その名も「兵岳連の森」との名前を付けて頂き、強く美しい森に育つことを夢見て今日まで「森づくり」に取り組んできました。参加して頂いているヒヨコ登山会会員の皆様には大変なご協力を頂きながら、早や 7 年と言う歳月が過ぎました。

次代への引き継ぎも頭に描き、子供たちがふるさとの森として心に刻むことのできる様な自然豊かな森になることをこれからも願ってやみません。



（作業風景）



平成 29 年 1 月 11 日（水）は 8 年目に入った初作業の日。岳連理事を含め、20 名の方が参加して下さいました。昨年 11 月、念入りに手入れしたおかげで斜面は大変綺麗な状態でしたが、3 月の植樹を想定しながら、南地区の刈り込みなどを行いました。

今年の春は昨年以上にコバノミツバツツジが美しく咲きそうな気配です！



（青空に映えるフユザクラ）

天候 晴れ

参加者 20 名（内ヒヨコ会員 18 名）